

霧島国際音楽祭の価値創造メカニズムの解明と 芸術文化事業マネジメント人材育成プログラムの開発

馬場武・林田吉恵（法経社会学科 経済コース）・農中至（法経社会学科 地域社会コース）



霧島国際音楽祭の地域文化資源としての価値とは？

文化資源の価値を地域住民とどのように共有すべき？

霧島国際音楽祭の観客への質問紙票調査

芸術文化を考えるワークショップ

「霧島の未来への贈りものプロジェクト」

▷ 直接的に音楽祭の価値を享受している観客の音楽祭への価値認識を明らかにする

▷ 地域の芸術文化資源に対する市民の価値認識を明らかにする

具体的な内容につきましては、下記馬場までお問い合わせください。

日時：2022年10月30日(日) 9:30～12:10
場所：霧島市国分シビックセンター 国分公民館大会議室
対象：霧島市に関わりのある高校生以上の方
主催：鹿児島大学法文学部・霧島市

▽ ワークショップの内容

- 1) 霧島市の芸術文化の現状
霧島市の芸術文化を見つめ直し、芸術文化が地域と市民にどのような価値をもたらしているのか、その価値を霧島市民はどのように共有しているのか考えていきます。
- 2) 霧島市の芸術文化の将来
霧島市の芸術文化を将来世代への贈りものとしたときに、私たち霧島市民はどのように芸術文化を将来世代に繋ぐべきなのか考えていきます。

▽ ワークショップの様子



▽ 参加者のコメント（芸術文化関係者から高校生まで多様な市民40名が参加）

今ある文化的な行事や物事をよりよく知り、参加し、広げることを進めていきたい。SNSを活用することも進めたいが、アナログでの交流も大事にしつつ直接の働きかけも同時に行えるようにしていきたい。

表現者として発信してきたけれど、もっと霧島市の芸術文化を私の表現と共に仲間から仲間へ発信して新しい価値を生み出すことを実行していきます。「市民が主体になって、それぞれがリーダー」この言葉がとても素敵でした。

幅広い年代や異なる立場（芸術を届ける側、受け取る側、行政の方など）から様々な意見を聞き、刺激になった。芸術を届けている方々の熱量に触れ、本当に多くの人に芸術を届けたい想いが伝わってきた。そのためにも誰かに動いてほしい、こうなってほしいと願望を持つだけでなく、自ら動く1人になることの重要性を実感した。

未来の贈りものプロジェクトWSから考える次の展開

現状

- 強み
 - 市民の熱意
 - 豊かな人的ネットワーク＝霧島市独自の文化資本
- 弱み
 - 内向きな活動運営

問題

- 根本的な問題：市民（個人と団体）に主体的な運営視点が希薄
- 具体的な問題：芸術文化活動の「場」の脆弱化（関係者の減少／活動運営の資源の枯渇／価値創造の停滞）

次の展開＝解決策

- 霧島の強みを生かした市民の芸術文化活動の「場」をデザインする人材の育成ー新たな価値を創造する文化的モンスの形成を目指してー

ありたい姿

- 多様な市民が主体的に協働して、多様な芸術文化活動を何とかがまいこと運営している状態
 - 芸術文化の多様性維持
 - 持続可能な芸術文化活動

霧島の強みを活かす | 新たな価値を創造する文化的モンス

「場」のデザイン人材（多様な市民や機関）で組成されるネットワーク組織による持続可能な芸術文化活動の「場」の形成と運営

霧島の強みである市民の熱意と文化資本（豊かな人的ネットワーク）を活かす

「場」のデザイン人材のネットワーク
芸術文化に関わる市民（個人・団体）／教育機関／商工業事業者／観光関連事業者...などなど

「場」のデザイン人材の連携による芸術文化活動の主体的な運営＝多様性維持＋持続可能

▶持続可能な芸術文化活動の「場」の形成と運営

- ① 多様な関係者（ファンや理解者含む）の増加
 - ・例）踊りの人が写真家に、写真の人が踊りの発表会に...なども含む
- ② 運営のための資源（ヒト・モノ・カネ・情報・知識）の共有による効率化
- ③ 新たな価値創造による地域の幸福の増幅